

風景画から一転して花鳥画に移した作品。墨と金をベースにして、雄々しく力強いワシの姿を捉えています。

黎明(昭和9年)
広島県立美術館所蔵



花鳥画

帝国美術院展覧会(現在の日本美術展覧会)の特選受賞作。それまでの細密描写から装飾的描写へと変化を見せた作品。風景描写を模索して、高く評価された一点です。古里・高宮町の情景を描いた作品とされています。

風景画



暮春(昭和5年)
広島県立美術館所蔵

人物画

歴史上実在した人物を描いた作品。シンプルに背景を省略して、人物を繊細な線で表現しています。

忠貞双絶(昭和16年)
広島県立美術館所蔵



戦前 大正後期～昭和20年ごろ

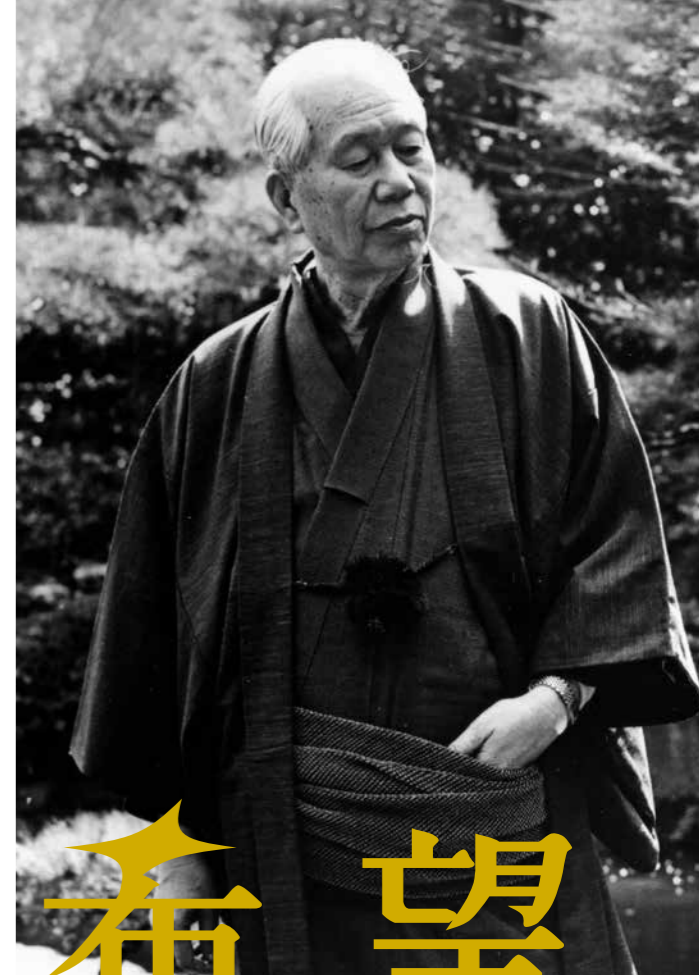
児玉希望の作品は風景画から始まります。その後一転して花鳥画に移行。自身で軍鶏やキツネなどを飼育したり、動物園を訪れ実物の写生を徹底して行うことで描かれた、力強い作品が数多く残されています。昭和15年ごろには歴史上の人物や美人画などの人物画が登場し、その作風をがらりと変えました。

没後50年

高宮町出身
近代日本画壇の巨匠

児玉希望の世へ

(1898～1971)



戦後 昭和25年ごろ～

戦後は、洋画的で斬新な世界を展開していくようになった児玉希望。西洋近代絵画の勉強にも取り組んでいたことから油絵の素養があり、色彩表現を意識しながら新しい時代にふさわしい力強い日本画を極めようとしていました。昭和32年、1年間のヨーロッパ滞在を経て抽象画への道を開いていきます。昭和46年、「百花百鳥図」の制作中、筆を持ったまま亡くなるまで、生涯画家を貫きました。

仏画的表現



晩年は仏画を多く残しています。鮮やかな色彩を使って描かれていますが、生涯テーマにしてきた水墨画の表現も用いられています。

観音(昭和42年) 広島県立美術館所蔵

吾妻橋から川面をのぞき込んだ情景を描いた作品。形態を抽象化して不思議な形で表現しています。見る人によってさまざまに感じ取ることができます。



抽象的表現

吾妻橋(昭和35年) 広島県立美術館所蔵

洋画的表現



線ではなく、色で対象を捉えた作品。洋画的な描法を試みています。

室内(昭和27年) 広島県立美術館所蔵

生涯挑戦し続けた日本画家、児玉希望。明治31年に高宮町で生まれ、20歳で川合玉堂に弟子入り。伝統的な日本画の技法を習得以降、さまざまな展覧会で受賞を重ね、早くからその実力を認められていました(昭和28年には日本芸術院賞を受賞)。特筆すべきは、その作品の幅広さ。風景画を皮切りに、花鳥画、人物画、洋風絵画、抽象画、仏画など多彩な作品を残し、その全てで高いクオリティを誇っています。近代日本画壇の巨匠と呼ばれた児玉希望の作品を、戦前・戦後に分けて、その移り変わりをご紹介します。

歴史民俗博物館で没後50年を記念した企画展を開催!

4月24日(土)から6月27日(日)まで、「児玉希望と安芸高田」を開催。詳細はP24をチェック。

教えていただきました

ふくやま美術館 学芸担当次長 永井 明生さん

児玉希望の作品を多く収蔵する広島県立美術館に1996年から2014年の間、学芸員として在籍。近現代の日本画の専門家。

